

毒 オオシロカラカサタケ(ハラタケ科)

発生時期 春～秋

発生場所 腐生菌
有機質の多い草地、畑地、芝生、公園など

中毒症状 嘔吐、下痢など激しい消化器系の症状を生じる

傘：白色～灰褐色で繊維状

ひだ：はじめ白色、胞子が成熟すると緑色を帯び、のち暗緑褐色

カラカサタケは成熟したひだでも白色

オオシロカラカサタケは熱帯性のきのこだけど、温暖化によって日本でもよく見かけるようになったよ。



注 カラカサタケ

生で食べると消化器系の中毒を起こす

傘：鱗片がある

ひだ：傷つくと赤変する

カラカサタケは傷ついても変色しない

つば：厚く可動性

肉：傷つくと赤変する

カラカサタケは傷ついても変色しない

開いた傘の径と柄の長さはほぼ同じ

カラカサタケは柄のほうが長いことが多い

柄：白色のち灰褐色、鱗片はない

カラカサタケのような鱗片による模様はない

柄：基部はややふくらむ

カラカサタケは球根状

傘：地肌は淡灰褐色

傘：鱗片がある

つば：リング状で可動性

ひだ：成熟しても白色

柄：鱗片は細かいだんだら模様

柄：基部は球根状にふくらむ



オオシロカラカサタケ

Check

- ① ひだは成熟すると緑色を帯びる（胞子が緑色をしているため）
- ② 柄には鱗片がなく、基部はふくらむが球根状ではない
- ③ 開いた傘の径と、柄の長さは、ほぼ同じのすんぐり型